

2019 年 6 月吉日

野田幼稚園で開催されるサッカースクールは今年で 18 年目を迎えました。園長先生をはじめ多くの方々のお力添えがあり、ここまで開催できたことにお礼申し上げます。当クラブではサッカーの普及活動及び地域への貢献事業の一つとして巡回指導やスクールを実施して来ました。ボール一つあればどこでもできるサッカーは世界の共通競技です。世界中どの街角でもボールを蹴って遊ぶ子どもたちが見うけられます。また、言葉は通じなくてもスポーツを通して良いコミュニケーションを築けることを経験します。国際的な場面ではサッカーは親睦のツールとして用いられています。近年の子どもたちを取り囲む社会的環境の著しい変化があります。我々人間は 36（細かく分ければ 80）を超える基礎的運動パターンを持つといわれています。この運動は 6～7 歳頃までに全て習得されます。36 の基礎的運動パターンとは「立つ、寝る、廻る、ぶらさがる」などの姿勢制御運動。「歩く、走る、登る、這う、すべる」などの移動運動、そして、「打つ、蹴る、投げる、押す、引く」などの操作運動がその一部です。この 36 の運動パターンは児童期に遊びを通じて習得され大人と同じになるのです。しかし、近頃の社会事情、生活環境の変化により習得が難しくなっています。最近の文部科学省の発表でも、「近年の運動能力や持久力の低下が将来を危ぶむ」との公表がありました。私たちは生活環境の悪化を懸念し 2000 年にクラブを立ち上げました。そして幼稚園での児童期の運動機能取得を目的としたサッカースクールを 2002 年よりこの野田幼稚園で始めました。幼児期から小学生低学年、小学生中学年では感覚の発達や神経・筋コントロール能力の向上が著しく、五感のほかに平衡感覚、位置感覚、運動感覚に関する深部感覚などは 10 歳までに急速に発達し、13 歳で成人の水準にほぼ並びます。このように人間の基礎がこの児童期に形成されてしまいます。私たちは子供の未来と接しています。未来に生きる子どもたちが運動基礎能力で困らないように習得を手助けしなくてはなりません。児童期に必要なことは経験する運動性の多様性です。同じ動きを繰り返すより、いろいろ変化をつけた動きを経験することが学習効果を高めます。この多様性運動効果は運動発達だけでなく、知覚や知的な発達を促すという重要な要素をあわせ持っています。幼稚園や小学校に入学し無限の可能性を持ったお子さんに何かをさせよう！と考えるなら、36 の基礎的運動パターンを網羅するスポーツをさせることが良いでしょう。大事な幼児期に多様性のある競技を可能な限り経験させて下さい。これは今後、各種のスポーツを行う上でも十分な効果を発揮します。野田幼稚園でのスクールは月に一度ですが、楽しみながら子供たちの能力を開花させ、また、高めていきたいと思っています。野田幼稚園でのスクール参加、ありがとうございます。